人と人、地域と地域、
人と地域をつなぐ・・・

FURE サテライト新聞

2016年12月発行 第10号

FURE
イメージキャラ めばえちゃん

発行

福島大学
うつくしまふくしま未来支援センター
(FURE)

相双地域支援サテライト

TEL 0240(23)6675
HP http://ifs.fure.fukushima-u.ac.jp/

広野町 国際フォーラム「被災地から考える」

被災地の課題を多角的に議論
3日間で17のセッションが盛り上がる

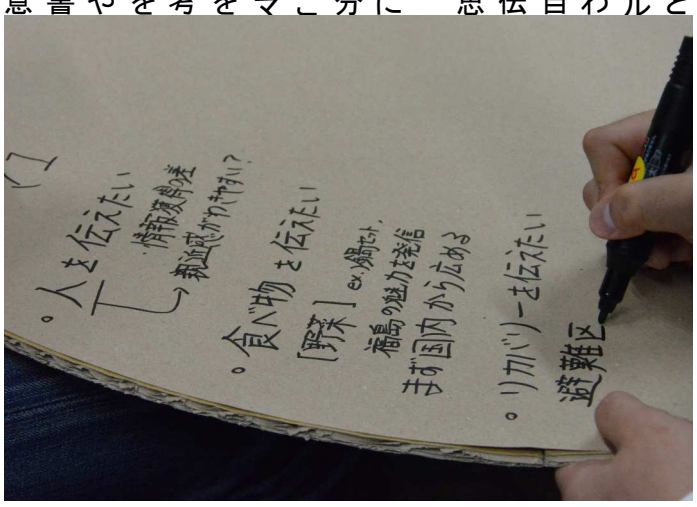
広野町を主会場にした国際フォーラム 被災地から考える」が11月25～27日の3日間、行われた。期間中、17のセッションと4つのサイドイベントが行われ、復興の在り方など、被災地の課題をさまざまな参加者たちが議論した。

開催を前に、昨年度のフォーラムを発展させ、広野町だけでなく、双葉郡の有志や専門家を交えた企画 運営会議を設け、内容を検討してきた今回。地元広野中の生徒の研修報告、ふたば未来学園の生徒によるパフォーマンス、郡内8町村で復興推進業務に就く行政職員の対話など、バラエティに富んだセッションが繰り広げられた。

このうち、開催2日目には、海外メディアの取材に同行した通訳案内士たちが、被災地での正しい情報発信のあり方を考えるセッション 福島をいかに海外とつなぐか―情報発信者としての役割―」には、町内外から約80人が参加。大学生や留学生などの姿も見られた。

おもてなし福島通訳ガイドの会の朝倉久美子代表、川井範子さん、横田あゆみさん、福島大のマクマイケル・ウィリアム助教がそれぞれの体験を元に、現在でも福島に関する誤った情報が海外で発信されている状況を指摘。この中でマクマイケル助教は、間違った情報に対して、自分の英語力を心配する場合は、地元にいる外国人に協力を求めてみてもいいし、発信する力、英語力も身につけるのも大切。」と話すとともに、正しい情報を得るべく学び、反論の材料を持つ必要性も強調した。

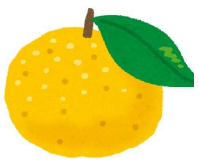
参加者を交えたグループワークも行われた。グループごとに段ボールを円卓代わりにし、自分たちが伝えたいと思うことや、情報発信について自分ができることをテーマにて意見を交わし、考えたことを段ボールや紙などに書きこみ、意見や思いを共有した。



さまざまな意見を段ボールへ書き込んだ

ユズが最盛期迎える

楢葉・松本さん宅 100本の木
一面に漂うさわやかな冬の香り



楢葉町大谷の松本広行さん宅で、約100本のユズの木が実り、風に乗ったさわやかな香りが、あたり一面に広がっている。

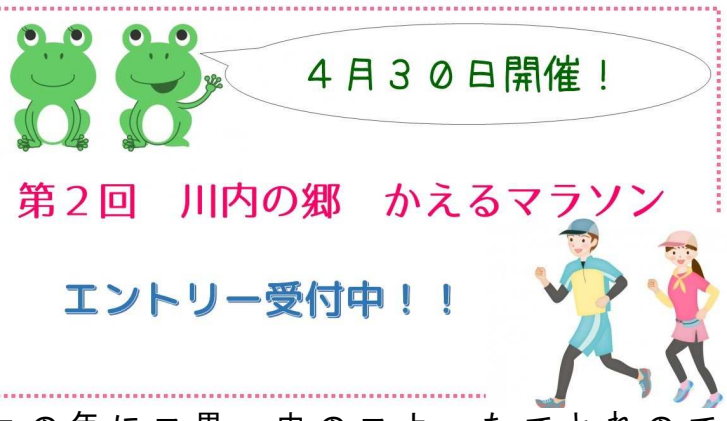
亡き父親がユズの栽培を始めてから約30年。ユズの木々は自宅前の約1000平方メートルの畑に等間隔に並ぶ。そのどれもにびっしりと実が付き、重さにしなる枝もあるほど。さわやかな香り、そして木々の間から差し込む木漏れ日の心地よさに、「いい所なんだ」と胸を張る。

町のキャラクター「ゆず太郎」の生みの親でもあり、町の有志でつくるユズ研究会の事務局長を務めるなど、町特産のユズを生かそうと奮闘する。原発事故前には仲間とともにユズを使った純米酒ベースの酒「ゆず里愛（サあい）」を販売し、好評を得ていた。

なんとか生産を委託できる酒造メーカーを探しているが、なかなか見つからない。ゆず里愛の生産再開の見込みは立っていないものの、諦めてはいない。

ユズをつみ取る松本さん

脳裏にあるのは、おいしいと言ってくれた人たちの顔。また笑顔を見ることを目標に、松本さんたちは活動を続けている。



28年春に好評を得た川内村のマラソン大会「川内の郷かえるマラソン」の第２回が４月30日、開かれる。前回も大会を多いに盛り上げた”公務員ランナー”の川内優輝さん、マラソン選手の吉田香織さんも再び参加して行われる。

大会は平成27年11月、川内小で行われた特別授業がきっかけに。当時の６年男児が、講師を務めた当時の村役場総務課長へ、マラソン大会による活性化を提言したことだった。

早速実行委員会を組織し、短期間での開催にこぎつけた第１回大会。約１２００人のランナーが各地から集まり、春の息吹を感じながら川内村を駆け抜けた。沿道では、村民挙げてのもてなしが行われ、好評を得たこともあり、継続しての開催が決まった。

種目は、18歳以上の男女の「ハーフ」、高校生以上の男女の10キロ、中学生以上の男女5キロ、中学生男女の3キロ、ファミリーを対象にした「1・5キロ」、年齢、性別の制限のない「川内優輝ロードファンラン／3キロ」。中学生3キロコース、川内優輝ロードファンランは新設した。

今回も「ご当地エイド」が登場し、自慢の手打ちそばや、野菜エ場KiMiDoRiの前ではスムージーが振る舞われる。

表彰は種目別に行われるほか、今回は最遠方賞、最高齢賞、仮装賞も用意。第１回では、大会名にちなみ、カエルの着ぐるみや帽子などを付けたランナーの姿も多く見かけられた。

郵便振替による申し込みは12月末で終了し、ホームページ「ランネット」を通した申し込みは１月31日が締め切りとなっている　定員に達した場合は締め切り前に募集を終了する）。

大会ホームページのアドレスはhttp://www.run-kawauchi.com/、公式フェイスブックページはhttps://www.facebook.com/kawauchimarathon/。問い合わせは電話（0240）38-3838まで。

サテライトより

双葉郡８町村の「今」がここに

「ふたばぐるぐるMAP」

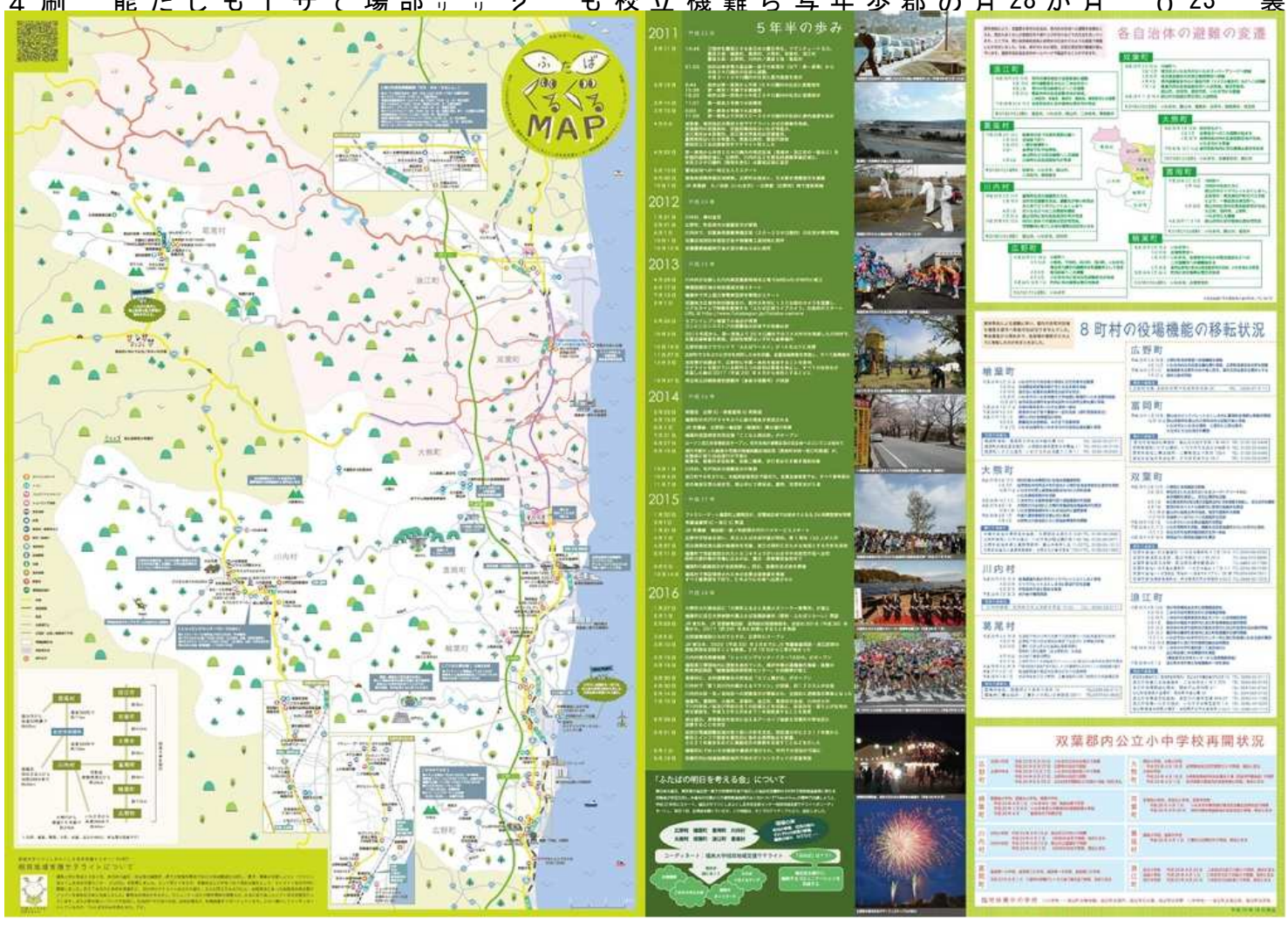
完成しました！！

以前、編集後記でお伝えしていた双葉郡８町村の案内地図「ふたばぐるぐるMAP（マップ）」が完成し、12月１日から各役場などでの配布が始まりました！

当サテライトが「ディネートしている、各役場で主に復興業務に携わる職員が毎月１回集まって意見交換を行っている会議体「ふたばの明日を考える会」から生まれた地図です。スタディーツアーなどで双葉郡を訪れる方々が困りやすいトイレやガソリンスタンドを示したほか、コンビニエンスストア、公設民営商業施設、金融機関、郵便局、日帰り温泉施設、宿泊施設などを掲載しました。

また、地図面の裏では、平成23（2011）年３月11日から同28年11月までの双葉郡内の歩みを年表と写真で紹介。さらに、住民の避難の変遷、役場機能の変遷、公立小中学校の開校状況についてもまとめました。

大きさはA2版　横420ミリメートル×縦594ミリメートル）で、１万部印刷し、各役場などで配布しているほか、当サテライトのホームページからもダウンロードして印刷していただくことも可能です。

ご家庭で印刷する場合、A4サイズでの出力がほとんどかと思われますが、その場合、文字が小さく、見にくくなってしまうことを、あらかじめご了承ください。スマートフォンやタブレット端末では、PDFファイルを拡大してご覧いただくことができます。

地図は新しい情報をお伝えするために、半年に１度を目安に更新する予定です。役場などで見かけた際には、ぜひ１度お手に取っていただき、お役立ていただけると幸いです。